



Cisco Connected Mobile Experiences **コマンド リファレンス ガイド**

リリース 10.2
2015 年 9 月

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
<http://www.cisco.com/jp>
お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)
電話受付時間: 平日10:00~12:00、13:00~17:00
<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。**

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが導入する TCP ヘッダー圧縮は、カリフォルニア大学バークレー校(UCB)により、UNIX オペレーティング システムの UCB パブリック ドメイン パーティションの一部として開発されたプログラムを適応したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco および Cisco ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧は、www.cisco.com/go/trademarks でご確認ください。掲載されている第三者の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Connected Mobile Experiences コマンド リファレンス ガイド
© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



はじめに v

CHAPTER 1

CLI コマンド	1-1
cmxctl コマンド	1-1
cmxctl checklogs	1-2
cmxctl debug	1-3
cmxctl disable	1-4
cmxctl dump	1-5
cmxctl enable	1-6
cmxctl jobs	1-7
cmxctl metrics notification	1-8
cmxctl node	1-9
cmxctl restart	1-10
cmxctl start	1-11
cmxctl status	1-13
cmxctl stop	1-15
cmxctl users	1-16
cmxctl version	1-17
cmxctl config コマンド	1-18
cmxctl config controllers	1-19
cmxctl config import	1-20
cmxctl config maps	1-21
cmxctl config reload	1-22
cmxctl config sma	1-23
cmxctl config verify	1-24
cmxos コマンド	1-26
cmxos addswap	1-27
cmxos backup	1-28
cmxos configure	1-29
cmxos firstboot	1-30
cmxos fixhaproxy	1-31
cmxos openports	1-32

[cmxos reconfigure](#) 1-33

[cmxos restore](#) 1-34

[cmxos upgrade](#) 1-35

[cmxos verify](#) 1-37



はじめに

ここでは、このマニュアルドキュメントの対象読者、構成、および表記法について説明します。また、関連資料の入手方法に関する情報も示します。この章は、次の項で構成されています。

- [対象読者 \(v ページ\)](#)
- [関連資料 \(vi ページ\)](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート \(vi ページ\)](#)

対象読者

このドキュメントは、Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) の設定および保守に携わる、十分な経験を持つネットワーク管理者を対象としています。

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンド、キーワード、ユーザ入力テキストは 太字 で表示しています。
イタリック体	文書のタイトル、新規用語、強調する用語、およびユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体</i> で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x y z}	必ずいずれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	いずれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。文字列を引用符で囲まないでください。引用符で囲むと、文字列に引用符が含まれることとなります。
courier フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符(!)またはポンド記号(#)がある場合には、コメント行であることを示します。

**(注)**

「注釈」です。役立つ情報やこのマニュアルに記載されていない参照資料を紹介しています。

**ヒント**

「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。

**注意**

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

**ワンポイントアドバイス**

「時間の節約に役立つ操作」です。記述されている操作を実行すると時間を節約できます。

**警告****安全上の重要な注意事項**

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

これらの注意事項を保管しておいてください。

**警告**

このシンボルを使ったステートメントは、追加情報および規制要件または顧客要件に準拠するためのものです。

関連資料

Cisco Mobility Services Engine および関連製品についての詳細は、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/wireless/mobility-services-engine/tsd-products-support-series-home.html> を参照してください。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報については、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。
<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



CLI コマンド

この章では、Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) の CLI コマンドについて説明します。

- [cmxctl コマンド \(1-1 ページ\)](#)
- [cmxctl config コマンド \(1-18 ページ\)](#)
- [cmxos コマンド \(1-26 ページ\)](#)



(注)

Cisco CMX のコンテキストで CLI を使用するには、コンソールから仮想マシン (VM) またはアプリケーションにアクセスするか、サーバへの IP 接続が可能な場合はセキュア シェル (SSH) を使用してサーバにアクセスします。

次のオプションを使用して、出力を操作したり、コマンドのヘルプを表示したりできます。

- **-v** または **--verbose**: 詳細出力を表示します。
- **-q** または **--quiet**: すべての出力を抑止します。
- **--help**: システムに用意されているヘルプ テキストを表示します (例: **cmxos --help**)。

cmxctl コマンド

ここでは、タスクのデバッグの実行、有効化、開始に使用できる **cmxctl** コマンドの一覧を示します。

- [cmxctl checklogs \(1-2 ページ\)](#)
- [cmxctl debug \(1-3 ページ\)](#)
- [cmxctl disable \(1-4 ページ\)](#)
- [cmxctl dump \(1-5 ページ\)](#)
- [cmxctl enable \(1-6 ページ\)](#)
- [cmxctl jobs \(1-7 ページ\)](#)
- [cmxctl node \(1-9 ページ\)](#)
- [cmxctl restart \(1-10 ページ\)](#)
- [cmxctl start \(1-11 ページ\)](#)
- [cmxctl status \(1-13 ページ\)](#)
- [cmxctl stop \(1-15 ページ\)](#)
- [cmxctl version \(1-17 ページ\)](#)

cmxctl checklogs

ログを確認したり、レポートを生成したりするには、**cmxctl checklogs** コマンドを使用します。

cmxctl checklogs

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

レポートが生成された後、エラーが記載された特定のログを表示して詳細を確認できます。

たとえば、`/opt/cmx.var.log/cmxjobs.log.3` に 108 のエラーがある場合、対応するファイルを表示するには、コマンド **more /opt/cmx.var.log/cmxjobs.log.3** を使用します。

例

以下に、ログを確認してレポートを生成する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl checklogs

*****
Checking /opt/cmx/var/log/cmxjobs.log.3 for errors..
/opt/cmx/var/log/cmxjobs.log.3 has 108 errors
*****
Checking /opt/cmx/var/log/system-cron.log for errors..
/opt/cmx/var/log/system-cron.log has 0 errors
*****
Checking /opt/cmx/var/log/cmxjobs.log for errors..
/opt/cmx/var/log/cmxjobs.log has 81 errors
*****
Checking /opt/cmx/var/log/collectd.log for errors..
/opt/cmx/var/log/collectd.log has 0 errors
*****
Checking /opt/cmx/var/log/consul.log for errors..
/opt/cmx/var/log/consul.log has 0 errors
*****
Checking /opt/cmx/var/log/qless-py-worker.log for errors..
/opt/cmx/var/log/qless-py-worker.log has 0 errors
*****
Checking /opt/cmx/var/log/influxdb.log for errors..
/opt/cmx/var/log/influxdb.log has 0 errors
*****
Checking /opt/cmx/var/log/cmxjobs.log.4 for errors..
/opt/cmx/var/log/cmxjobs.log.4 has 108 errors
*****
```


cmxctl debug

現在のディレクトリにデバッグ tar ファイルを作成するには、**cmxctl debug** を使用します。

cmxctl debug

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

作成される デバッグ tar ファイルのサイズは約 300 MB です。ファイルの作成が完了するまで、90 秒かかります。

例

以下に、現在の作業ディレクトリにデバッグ tar ファイルを作成する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl debug

running locally
Dumping debug information...
[localhost] Executing task 'dump_config'
cp: cannot stat `/opt/cmx/share/upgrade.answers': No such file or directory
[localhost] Executing task 'dump_state'
running 'ps aux'
running 'ifconfig -a'
running 'cmxctl status'
running 'ulimit -a'
running 'ps -u root,postgres -o %cpu,%mem,cmd'
running 'netstat -o -n -a'
running 'df -h'
running 'ntpdate -d 172.19.28.250'
running 'consul members'
[localhost] Executing task 'dump_apis'
getting /api/config/v1/clusters
getting /api/config/v1/nodes
[localhost] Executing task 'dump_hosts'
pinging configuration.service.consul
pinging location.service.consul
pinging 6379.cache.service.consul
pinging 6380.cache.service.consul
pinging 6381.cache.service.consul
pinging database.service.consul
pinging analytics.service.consul
pinging halo.service.consul
完了。
```

cmxctl disable

サービスを無効にするには、**cmxctl disable** コマンドを使用します。

```
cmxctl disable {analytics | agent | cache_6379 | cache_6380 | cache_6381 | cassandra |
configuration | confd | consul | database | haproxy | location | matlabengine | metrics |
nmsplb | influxdb | iodocs | qllesspyworker}
```

構文の説明

analytics	計算された位置データを分析します。
agent	Cisco CMX システムのライフサイクルを管理します。Cisco CMX で実行されるすべてのサービスを開始、停止、およびモニタします。
cache_6379	ロケーション サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cache_6380	分析サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cache_6381	分析サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cassandra	ロケーション サービスで履歴データに使用する Cassandra データベース サービスを有効化します。
configuration	ノードおよびクラスタを構成します。
confd	内部サービス。
consul	内部サービス。
database	分析および構成サービスによって使用されるデータベース サービスを有効化します。
haproxy	すべてのサービス API に対して TCP または HTTP ロード バランサのゲートウェイを有効化します。
location	位置を計算するロケーション サービスを有効化します。
matlabengine	ロケーション サービスのアクセス ポイント ヒートマップを提供します。
metrics	システム メトリックを収集します。
nmsplb	Network Mobility Services Protocol (NMSP) メッセージをロケーション サービスに配信するために使用するロード バランサ サービスを有効化します。
influxdb	さまざまなサービスの統計情報を保管するために使用するデータベース サービスを有効化します。
iodocs	さまざまなサービスによって提供される REST API のオンライン ドキュメント サービスを有効化します。
qllesspyworker	内部サービス。

コマンド デフォルト

なし

例

以下に、Cassandra データベース サービスを無効化する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl disable cassandra

Done
The nodeagent service is currently running with PID: 31776
Stopping cassandra process...
Done
Successfully shutdown cassandra Process.
```

cmxctl dump

現在のディレクトリに構成 tar ファイルを作成するには、**cmxctl dump** を使用します。

cmxctl dump

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

例

以下に、現在の作業ディレクトリに構成 tar ファイルを作成する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl dump

running locally
Dumping configuration information...
[localhost] Executing task 'dump_config'
完了。
```

cmxctl enable

サービスを有効化するには、**cmxctl enable** コマンドを使用します。

cmxctl enable {analytics | agent | cache_6379 | cache_6380 | cache_6381 | cassandra | configuration | confd | consul | database | haproxy | location | matlabengine | metrics | nmsplb | influxdb | iodocs | qlesspyworker}

構文の説明

analytics	計算された位置データを分析します。
agent	Cisco CMX システムのライフサイクルを管理します。Cisco CMX で実行されるすべてのサービスを開始、停止、およびモニタします。
cache_6379	ロケーション サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cache_6380	分析サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cache_6381	分析サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cassandra	ロケーション サービスで履歴データに使用する Cassandra データベース サービスを有効化します。
configuration	ノードおよびクラスタを構成します。
confd	内部サービス。
consul	内部サービス。
database	分析および構成サービスによって使用されるデータベース サービスを有効化します。
haproxy	すべてのサービス API に対して TCP または HTTP ロード バランサのゲートウェイを有効化します。
location	位置を計算するロケーション サービスを有効化します。
matlabengine	ロケーション サービスのアクセス ポイント ヒートマップを提供します。
metrics	システム メトリックを収集します。
nmsplb	Network Mobility Services Protocol (NMSP) メッセージをロケーション サービスに配信するために使用するロード バランサ サービスを有効化します。
influxdb	さまざまなサービスの統計情報を保管するために使用するデータベース サービスを有効化します。
iodocs	さまざまなサービスによって提供される REST API のオンライン ドキュメント サービスを有効化します。
qlesspyworker	内部サービス。

コマンド デフォルト

なし

例

次に、分析サービスを有効化する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl enable analytics

The nodeagent service is not running.
Agent is not running, starting it now.
Starting nodeagent Process...
Retrying..
Done
Started nodeagent service with PID: 31027
```

cmxctl jobs

定期的なバックグラウンド ジョブを設定するには、**cmxctl jobs** コマンドを使用します。

```
cmxctl jobs {cancel jobname | list | run jobname | runnow jobname}
```

構文の説明

cancel	スケジュール済みジョブをキャンセルします。
<i>jobname</i>	ジョブの名前。
list	すべてのスケジュール済みジョブを一覧表示します。
run	指定した時刻にジョブを実行します。
runnow	1 回限りのジョブ実行をトリガーします。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

Apache Cassandra データベースは、位置の履歴データを保管します。ディスク使用量を抑えるためには、プルーニングを実行する必要があります。Cisco CMX 10.2 には、データベース サイズをプルーニングするオプションが導入されています。デフォルトのディスクプルーニング タスクは 90 日間隔で実行されます。

cmxctl jobs runnow cleanupcassandra コマンドを使用して、Cassandra データベースのクリーンアップ ジョブ (2 日間隔で実行される標準のスケジュール済みタスク) をオンデマンドで実行することもできます。

例

以下に、バックグラウンド ジョブを実行する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl jobs run LocationIndexCleanup  
  
submitted the job, verify using cmxctl jobs list.
```

cmxctl metrics notification

Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) ファイルの通知メトリックを生成するには、**cmxctl metrics notification** コマンドを使用します。

cmxctl metrics notification

構文の説明

このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

notification キーワードは、通知のメトリックを指定します。

例

以下に、Cisco CMX ファイルのメトリックを生成する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl metrics notification
```

```
+-----+-----+-----+-----+-----+
-----+
|           EndPoint           | Success | Failure | SuccessRate |
FailureRate |
+=====+=====+=====+=====+=====+
=====+
+-----+-----+-----+-----+-----+
-----+
```

cmxctl node

ノードのインストールを管理するには、**cmxctl node** コマンドを使用します。

```
cmxctl node {addswap | configure / install | reinstall / sslmode {disable | enable} / uninstall |
upgrade | verify}
```

構文の説明

addswap	ノードに 10 GB のスワップ領域を追加します。
configure	ノードの仕様を確認します。
install	Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) の初期インストールを実行します。
reinstall	既存のインストール済み環境を再インストールします。
sslmode disable	セキュアソケットレイヤ (SSL) をディセーブルにします。
sslmode enable	SSL をイネーブルにします。
uninstall	ソフトウェアをアンインストールします。
upgrade	Cisco CMX を URL またはファイルからアップグレードします。URL を使用したアップグレードは、次の 2 つのステップで行われます。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ファイル (Red Hat Package Manager [RPM]) をダウンロードします。この場合、イメージをダウンロードするために、HTTP または FTP リンクが必要になります。 2. RPM をインストールします。
verify	ノードの設定を確認します。

コマンド デフォルト

なし

例

以下に、ノードのインストールを管理する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl node sslmode enable

enabling ssl
ssl enabled
```

cmxctl restart

Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) サービスを再開するには、**cmxctl restart** コマンドを使用します。

```
cmxctl restart {analytics | agent | cache_6379 | cache_6380 | cache_6381 | cassandra |
configuration | confd | consul | database | haproxy | location | matlabengine | metrics |
nmsplb | influxdb | iodocs | qlesspyworker}
```

構文の説明

analytics	計算された位置データを分析します。
agent	Cisco CMX システムのライフサイクルを管理します。Cisco CMX で実行されるすべてのサービスを開始、停止、およびモニタします。
cache_6379	ロケーション サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cache_6380	分析サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cache_6381	分析サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cassandra	ロケーション サービスで履歴データに使用する Cassandra データベース サービスを有効化します。
configuration	ノードおよびクラスタを構成します。
confd	内部サービス。
consul	内部サービス。
database	分析および構成サービスによって使用されるデータベース サービスを有効化します。
haproxy	すべてのサービス API に対して TCP または HTTP ロード バランサのゲートウェイを有効化します。
location	位置を計算するロケーション サービスを有効化します。
matlabengine	ロケーション サービスのアクセス ポイント ヒートマップを提供します。
metrics	システム メトリックを収集します。
nmsplb	Network Mobility Services Protocol (NMSP) メッセージをロケーション サービスに配信するために使用するロード バランサ サービスを有効化します。
influxdb	さまざまなサービスの統計情報を保管するために使用するデータベース サービスを有効化します。
iodocs	さまざまなサービスによって提供される REST API のオンラインドキュメントサービスを有効化します。
qlesspyworker	内部サービス。

コマンド デフォルト

なし

例

次に、Cisco CMX サービスを再開する例を示します。

```
[root@server bin]# cmxctl restart database

Done
The nodeagent service is currently running with PID: 16718
Stopping postgres Process...
Successfully shutdown postgres Process.
Starting postgres Process...
Done
Started postgres service with PID: 25702
Exception while notifying CE
```


cmxctl start

Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) サービスを開始するには、**cmxctl start** コマンドを使用します。

```
cmxctl start {analytics | agent | cache_6379 | cache_6380 | cache_6381 | cassandra |
configuration | confd | consul | database | haproxy | location | matlabengine | metrics |
nmsplb | influxdb | iodocs | qlesspyworker}
```

構文の説明

analytics	計算された位置データを分析します。
agent	Cisco CMX システムのライフサイクルを管理します。Cisco CMX で実行されるすべてのサービスを開始、停止、およびモニタします。
cache_6379	ロケーション サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cache_6380	分析サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cache_6381	分析サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cassandra	ロケーション サービスで履歴データに使用する Cassandra データベースサービスを有効化します。
configuration	ノードおよびクラスタを構成します。
confd	内部サービス。
consul	内部サービス。
database	分析および構成サービスによって使用されるデータベース サービスを有効化します。
haproxy	すべてのサービス API に対して TCP または HTTP ロード バランサのゲートウェイを有効化します。
location	位置を計算するロケーション サービスを有効化します。
matlabengine	ロケーション サービスのアクセス ポイント ヒートマップを提供します。
metrics	システム メトリックを収集します。
nmsplb	Network Mobility Services Protocol (NMSP) メッセージをロケーション サービスに配信するために使用するロード バランサ サービスを有効化します。
influxdb	さまざまなサービスの統計情報を保管するために使用するデータベースサービスを有効化します。
iodocs	さまざまなサービスによって提供される REST API のオンラインドキュメント サービスを有効化します。
qlesspyworker	内部サービス。

コマンド デフォルト

なし

例

次に、Cisco CMX サービスを開始する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl start consul

Done
The nodeagent service is currently running with PID: 16718
Done
The analytics service is already running with pid: 1099
```

```
Done
Exception while notifying CE
Done
The location service is already running with pid: 16005
Done
Exception while notifying CE
Done
The configuration service is already running with pid: 16165
Done
Exception while notifying CE
Done
The matlabengine service is already running with pid: 1251
Done
Exception while notifying CE
Done
The nmsplb service is already running with pid: 1377
Done
Exception while notifying CE
```

cmxctl status

1 つまたはすべての Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) サービスのステータスを表示するには、**cmxctl status** コマンドを使用します。

```
cmxctl status [analytics | agent | cache_6379 | cache_6380 | cache_6381 | cassandra |
configuration | confd | consul | database | haproxy | location | matlabengine | metrics |
nmsplb | influxdb | iodocs | qllesspyworker]
```

構文の説明

analytics	計算された位置データを分析します。
agent	Cisco CMX システムのライフサイクルを管理します。Cisco CMX で実行されるすべてのサービスを開始、停止、およびモニタします。
cache_6379	ロケーション サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cache_6380	分析サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cache_6381	分析サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cassandra	ロケーション サービスで履歴データに使用する Cassandra データベース サービスを有効化します。
configuration	ノードおよびクラスタを構成します。
confd	内部サービス。
consul	内部サービス。
database	分析および構成サービスによって使用されるデータベース サービスを有効化します。
haproxy	すべてのサービス API に対して TCP または HTTP ロード バランサのゲートウェイを有効化します。
location	位置を計算するロケーション サービスを有効化します。
matlabengine	ロケーション サービスのアクセス ポイント ヒートマップを提供します。
metrics	システム メトリックを収集します。
nmsplb	Network Mobility Services Protocol (NMSP) メッセージをロケーション サービスに配信するために使用するロード バランサ サービスを有効化します。
influxdb	さまざまなサービスの統計情報を保管するために使用するデータベース サービスを有効化します。
iodocs	さまざまなサービスによって提供される REST API のオンラインドキュメント サービスを有効化します。
qllesspyworker	内部サービス。

コマンド デフォルト なし

例

以下に、コンソール サービスのステータスを表示する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl status consul

Done
The nodeagent service is currently running with PID: 16718
+-----+-----+-----+-----+
| Host          | Service        | Status  | Uptime (HH:mm) |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Analytics      | Running | 0 days, 05:17  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Cache_6379     | Running | 0 days, 05:17  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Cache_6380     | Running | 0 days, 05:17  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Cache_6381     | Running | 0 days, 05:17  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Cassandra      | Running | 0 days, 04:08  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Confd          | Running | 0 days, 03:40  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Configuration  | Running | 0 days, 03:43  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Consul         | Running | 0 days, 05:17  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Database       | Running | 0 days, 05:17  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Haproxy        | Running | 0 days, 05:17  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Influxdb       | Running | 0 days, 05:17  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Iodocs         | Running | 0 days, 05:17  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Location       | Running | 0 days, 03:43  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Matlabengine   | Running | 0 days, 05:17  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Metrics        | Running | 0 days, 05:17  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Nmsplb         | Running | 0 days, 05:16  |
+-----+-----+-----+-----+
| cmx-master-1 | Qlesspyworker  | Running | 0 days, 05:23  |
+-----+-----+-----+-----+
```

cmxctl stop

Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) サービスを停止するには、**cmxctl start** コマンドを使用します。

```
cmxctl stop {analytics | agent | cache_6379 | cache_6380 | cache_6381 | cassandra |
configuration | confd | consul | database | haproxy | location | matlabengine | metrics |
nmsplb | influxdb | iodocs | qlesspyworker}
```

構文の説明

analytics	計算された位置データを分析します。
agent	Cisco CMX システムのライフサイクルを管理します。Cisco CMX で実行されるすべてのサービスを開始、停止、およびモニタします。
cache_6379	ロケーション サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cache_6380	分析サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cache_6381	分析サービスによって使用されるサービスをキャッシュします。
cassandra	ロケーション サービスで履歴データに使用する Cassandra データベース サービスを有効化します。
configuration	ノードおよびクラスタを構成します。
confd	内部サービス。
consul	内部サービス。
database	分析および構成サービスによって使用されるデータベース サービスを有効化します。
haproxy	すべてのサービス API に対して TCP または HTTP ロード バランサのゲートウェイを有効化します。
location	位置を計算するロケーション サービスを有効化します。
matlabengine	ロケーション サービスのアクセス ポイント ヒートマップを提供します。
metrics	システム メトリックを収集します。
nmsplb	Network Mobility Services Protocol (NMSP) メッセージをロケーション サービスに配信するために使用するロード バランサ サービスを有効化します。
influxdb	さまざまなサービスの統計情報を保管するために使用するデータベース サービスを有効化します。
iodocs	さまざまなサービスによって提供される REST API のオンラインドキュメントサービスを有効化します。
qlesspyworker	内部サービス。

コマンド デフォルト

サービスは実行中です。

例

以下に、分析サービスを停止する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl stop analytics

Done
The nodeagent service is currently running with PID: 16987
Stopping analytics Process...
Service analytics with pid: 19095
Retrying..
Done
Successfully shutdown analytics Process.
```

cmxctl users

CLI を使用して Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) ユーザを一覧表示または設定するには、**cmxctl users** コマンドを使用します。

cmxctl users {list | passwd *username*}

構文の説明

list	現在のユーザをすべて一覧表示します。
passwd	ユーザのパスワードを設定します。
<i>username</i>	Cisco CMX でのユーザのユーザ名。

コマンド デフォルト

なし

例

以下に、CLI を使用して Cisco CMX ユーザを一覧表示する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl users list

+-----+-----+-----+
| Username | Full Name | Roles |
+-----+-----+-----+
| monitor | Monitor User | Read Only |
+-----+-----+-----+
| admin   | Admin User | Admin   |
+-----+-----+-----+
```

cmxctl version

Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) のバージョンを確認するには、**cmxctl version** コマンドを使用します。

cmxctl version

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

例

以下に、Cisco CMX のバージョン情報を表示する方法を示します。

```
[root@server]# cmxctl version

Build Version   : 10.1.0-27
Build Time      : 2015-05-05 03:06:45.437430
-----
Name            : cmx-ng-container
Commit Count    : 17
Short Hash      : bf20ec1
-----
Name            : cmx-ng-location
Commit Count    : 5
Short Hash      : efc84fa
-----
Name            : cmx-ng-ui
Commit Count    : 5
Short Hash      : d793df7
-----
Name            : cmx-ova
Build Time      : Fri Feb 20 06:34:38 UTC 2015
-----
```

cmxctl config コマンド

ここでは、**cmxctl config** コマンドの一覧を示します。

- [cmxos backup](#) (1-28 ページ)
- [cmxctl config controllers](#) (1-19 ページ)
- [cmxctl config import](#) (1-20 ページ)
- [cmxctl config maps](#) (1-21 ページ)
- [cmxctl config reload](#) (1-22 ページ)
- [cmxos restore](#) (1-34 ページ)
- [cmxctl config sma](#) (1-23 ページ)
- [cmxctl config verify](#) (1-24 ページ)

cmxctl config controllers

シスコ ワイヤレス コントローラ (Cisco WLC) を管理するには、**cmxctl config controllers** コマンドを使用します。

cmxctl config controllers {add | delete | import | show}

構文の説明

add	Cisco WLC を追加します。
delete	Cisco WLC を削除します。
import	対応するクレデンシャルを指定するか、エクスポートした Cisco Prime Infrastructure MAP ファイルを Cisco CMX サーバの /opt ディレクトリに配置して、その MAP ファイルのパスを指定することにより、Cisco Prime Infrastructure から Cisco WLC をインポートします。
show	Cisco WLC に関する情報を表示します。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

Cisco WLC が追加されると、「controller added successfully」というメッセージが表示されます。これは、コマンドが正しく解析されたことだけを意味します。Cisco WLC がアクティブでないことを確認するには、**cmxctl controllers show** コマンドを実行する必要があります。

例

以下に、Cisco WLC 情報を表示する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl config controllers show

+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
| IP Address | Type | Version | Device Version | SHA2 | Status |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
| 30.30.30.65 | WLC | 8.0.72.141 | - | No | ACTIVE |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
| 30.30.30.44 | WLC | 8.0.72.141 | - | No | ACTIVE |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
| 30.30.30.46 | WLC | 8.0.72.141 | - | No | ACTIVE |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
| 30.30.30.70 | WLC | 8.0.72.141 | - | No | ACTIVE |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
| 30.30.30.93 | WLC | 8.0.72.141 | - | No | ACTIVE |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
| 30.30.30.97 | WLC | 8.0.72.141 | - | No | ACTIVE |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
| 30.30.30.35 | WLC | 8.0.72.141 | - | No | ACTIVE |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
| 30.30.30.58 | WLC | 8.0.72.141 | - | No | ACTIVE |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
| 30.30.30.82 | WLC | 8.0.72.141 | - | No | ACTIVE |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
| 30.30.30.84 | WLC | 8.0.72.141 | - | No | ACTIVE |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
| 30.30.30.53 | WLC | 8.0.72.141 | - | No | ACTIVE |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+
```

cmxctl config import

Cisco Prime Infrastructure からマップおよびシスコ ワイヤレス コントローラ (Cisco WLC) をインポートするには、**cmxctl config import** コマンドを使用します。

cmxctl config import {prime | status}

構文の説明

prime	Cisco Prime Infrastructure からマップをインポートします。
status	インポート ステータスを表示します。

コマンド デフォルト

なし

例

次に、Cisco Prime Infrastructure からマップおよび Cisco WLC をインポートする例を示します。

```
[root@server]# cmxctl config import prime
```

```
Please enter PI ip address: x.x.x.x  
Please enter PI username [root]: root  
Please enter PI password [Public123]:
```

```
Import successfully started from PI x.x.x.x.Check import status using cmxctl config import status.
```

cmxctl config maps

マップをインポートおよび管理するには、**cmxctl config maps** コマンドを使用します。

cmxctl config maps {address | delete | import}

構文の説明

address	マップのアドレスをインポートします。
delete	キャンパス マップを削除します。
import	Cisco Prime Infrastructure からマップをインポートします。

コマンド デフォルト

なし。

例

以下に、マップをインポートして管理する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl config maps import

Please specify import type [PI / FILE] [FILE]: PI
Please enter PI ip address: x.x.x.x
Please enter PI username [root]: root
Please enter PI password [Public123]:

Import successfully started from PI 173.37.206.3.Check import status using cmxctl config
import status.
```

cmxctl config reload

強制的に設定ファイルを生成するには、**cmxctl config reload** コマンドを使用します。

cmxctl config reload

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

例

以下に、強制的に設定ファイルを生成する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl config reload

2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: WARNING Skipping confd config file.
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/analytics.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/cassandra/cassandra-env.sh in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/cassandra/cassandra.yaml in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/collectd.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/configuration.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/connect.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/halo.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/haproxy.cfg in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/influxdb.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/location.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/matlabengine.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/nmsplb.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/nmspproxy.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/postgresql.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/redis_6379.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/redis_6380.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: INFO Target config
/opt/cmx/etc/redis_6381.conf in sync
2015-03-10T17:45:50Z cmx-vmdev117 -verbose[17174]: ERROR template:
redis.template.conf:15:20: executing "redis.template.conf" at <getv ($tag | printf ...>:
error calling getv: key does not exist
```

cmxctl config sma

ソーシャルメディア分析(SMA)を管理するには、**cmxctl config sma** コマンドを使用します。

cmxctl config sma {proxy | twitter}

構文の説明

proxy	HTTP プロキシを設定します。
twitter	Twitter クレデンシャルを設定します。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

SMA プロキシを設定した後、qlesspyworker を再開して変更を適用します。

例

以下に、SMA を管理する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl config sma proxy
```

```
Please enter value for http proxy: http://proxy.cisco.com:80
```

```
Please enter value for https proxy: http://proxy.cisco.com:80
```

```
SMA Proxies have been set.Please restart qlesspyworker for the changes to take effect.
```

cmxctl config verify

Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) のインストール済み環境と設定を確認するには、**cmxctl config verify** コマンドを使用します。

cmxctl config verify

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

例

以下に、Cisco CMX インストール済み環境と設定を確認する例を示します。

```
[root@server]# cmxctl config verify

Verifying node configuration...
NetworkManager: unrecognized service
Consul v0.4.1
Consul Protocol: 2 (Understands back to: 1)
confd 0.6.0
-----+-----+-----+-----+
--+
| module          | check                               | passed | msg                               |
|-----+-----+-----+-----+
==+
| netman_stopped | NetworkManager service is not     | Success | |
|                 | running                            |         | |
|-----+-----+-----+-----+
--+
| matlabengine   | http://matlabengine.service.co    | Failed  | check the log files             |
| under          |                                     |         | /opt/cmx/var/log                |
|                 | nsul:5577/api/services/matlabengine/status |         |                                  |
|-----+-----+-----+-----+
--+
| database        | connect to database port:5432     | Success | |
|-----+-----+-----+-----+
--+
| consul_dns     | 127.0.0.1 (consul) is present     | Success | |
|                 | as dns server in                   |         | /etc/resolv.conf                |
|-----+-----+-----+-----+
--+
| etchost_hacks  | consul service hostnames not      | Success | |
|                 | static in /etc/hosts               |         |
```

```

+-----+-----+-----+-----+
--+
| analytics      | http://analytics.service.consul | Failed   | check the log files
under |
|                | 1:5556/api/services/analytics/  |          | /opt/cmx/var/log
|                | status                           |          |
|                |                                  |          |
+-----+-----+-----+-----+
--+
| hostname_ping  | ping to hostname:cmx-master-1   | Success  |
|
+-----+-----+-----+-----+
--+
| location       | http://location.service.consul  | Failed   | check the log files
under |
|                | :5555/api/services/location/st  |          | /opt/cmx/var/log
|                | atus                             |          |
|                |                                  |          |
+-----+-----+-----+-----+
--+
| confd_installed | Confd is installed              | Success  |
|
+-----+-----+-----+-----+
--+
| consul_installe | Consul is installed              | Success  |
| d               |                                  |          |
|                 |                                  |          |
+-----+-----+-----+-----+
--+
| nmsplb         | http://nmsplb.service.consul:6  | Failed   | check the log files
under |
|                | 001/api/services/nmsplb/status  |          | /opt/cmx/var/log
|                |                                  |          |
+-----+-----+-----+-----+
--+
| configuration  | http://configuration.service.c  | Failed   | check the log files
under |
|                | onsul:6000/api/services/config  |          | /opt/cmx/var/log
|                | uration/status                  |          |
|                |                                  |          |
+-----+-----+-----+-----+
--+
| cassandra      | connect to cassandra port:9042  | Success  |
|
+-----+-----+-----+-----+
--++

```

cmxos コマンド

ここでは、**cmxos** コマンドの一覧を示します。

- [cmxos addswap \(1-27 ページ\)](#)
- [cmxos backup \(1-28 ページ\)](#)
- [cmxos configure \(1-29 ページ\)](#)
- [cmxos firstboot \(1-30 ページ\)](#)
- [cmxos fixhaproxy \(1-31 ページ\)](#)
- [cmxos openports \(1-32 ページ\)](#)
- [cmxos reconfigure \(1-33 ページ\)](#)
- [cmxos restore \(1-34 ページ\)](#)
- [cmxos upgrade \(1-35 ページ\)](#)
- [cmxos verify \(1-37 ページ\)](#)

cmxos addswap

オペレーティング システムに 10 GB の領域を追加するには、**cmxos addswap** コマンドを使用します。

cmxos addswap

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

このコマンドは、**root** ユーザ レベルで実行する必要があります。

例

以下に、オペレーティング システムのディスク領域を増やす例を示します。

```
[root@server]# cmxos addswap

10485760+0 records in
10485760+0 records out
10737418240 bytes (11 GB) copied, 29.6845 s, 362 MB/s
Setting up swapspace version 1, size = 10485756 KiB
no label, UUID=2734f069-e687-4635-b2d6-9381241bc7ee
swap added, run system info to verify
[root@cmx-vmdev146 ~]#
```

cmxos backup

ノードをバックアップするには、**cmxos backup** コマンドを使用します。

cmxos backup

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

このコマンドは、**cmxadmin** (非 **root**) アカウントを使用して実行する必要があります。

例

以下に、ノードをバックアップする例を示します。

```
[root@server]# cmxos backup

Please enter the path for backup file [/tmp]:
[17:43:50] Preparing for backup...
[17:43:50] Backup Database...
[17:43:51] Backup Cache...
[17:43:51] Backup Cassandra...
[17:43:53] Backup InfluxDb...
[17:43:53] Backup Consul...
[17:43:53] Backup Floormaps...
[17:43:53] Backup node configuration...
[17:43:59] Creating tar file..
[17:43:59] Done Backup.Created backup file
/tmp/cmx_backup_cmx-vmdev117_2015_03_10_17_43.tar.gz
?[]0;root@cmx-vmdev117:~[root@cmx-vmdev117 ~]# cmxos restore
?[?1034hPlease enter the backup file path:
/tmp/cmx_backup_cmx-vmdev117_2015_03_10_17_43.tar.gz
[17:44:12] Preparing for restore...
[17:44:12] Untarring backup file...
[17:44:13] Stopping all services...
[17:44:16] Restoring Database...
Restarting database...
[17:44:26] Restoring Cache...
Stopping cache_6379...
Restarting cache_6379...
Stopping cache_6381...
Restarting cache_6381...
Stopping cache_6380...
Restarting cache_6380...
[17:44:55] Restoring Cassandra...
Stopping Cassandra...
Restarting Cassandra...
.....
[17:45:19] Restoring Influxdb...
[17:45:19] Restoring consul...
[17:45:19] Restoring floormaps...
[17:45:19] Running Post Restore Tasks...
[17:45:19] Migrating Schemas...
[17:45:19] Migrating Cassandra schemas...
[17:45:20] Restarting all services...
[17:45:23] Done
```

cmxos configure

ネットワークおよびオペレーティング システム パラメータを設定するには、**cmxos configure** コマンドを使用します。

cmxos configure

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

このコマンドは、**root** ユーザ レベルで実行する必要があります。デバイスがすでに設定されている場合、**--force** オプションを使用することで、設定を強制的に更新できます。

例

以下に、ネットワークおよびオペレーティング システムのパラメータを設定する例を示します。

```
[root@server]# cmxos configure --force
```

```
*** The system is already configured
```

```
*****
Checking if the machine meets required specification...
*****
+-----+-----+-----+-----+
| Check |      expected      |   actual   | Result |
+-----+-----+-----+-----+
| memory | 8GB                 | 25GB       | ?      |
+-----+-----+-----+-----+
| cpu    | 4                   | 8          | ?      |
+-----+-----+-----+-----+
| disk   | 50GB                | 51GB       | ?      |
+-----+-----+-----+-----+
| hostname | rfc compliant hostname | cmx-vmdev146 | ?      |
+-----+-----+-----+-----+
```

cmxos firstboot

Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) のバージョンを再度セットアップするには、**cmxos firstboot** コマンドを使用します。

cmxos firstboot

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

このコマンドは、root ユーザレベルで実行する必要があります。デバイスがすでに設定されている場合、**--force** オプションを使用することで、設定を強制的に更新できます。

例

以下に、Cisco CMX サービスを再度セットアップする例を示します。

```
[root@server]# cmxos firstboot
```

```
Not first boot....Exiting...
```

cmxos fixhaproxy

Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) に対する HAproxy アクセス許可を確認するには、**cmxos fixhaproxy** コマンドを使用します。

cmxos fixhaproxy

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

このコマンドは、**root** ユーザ レベルで実行する必要があります。

例

以下に、HAproxy アクセス許可を確認する例を示します。

```
[root@server]# cmxos fixhaproxy
```

```
Raising haproxy setcap...
```

cmxos openports

ノード ルールに従ってポートを開くには、**cmxos openports** コマンドを使用します。

cmxos openports {analytics | location | database}

構文の説明

analytics	ノードに 10 GB のスワップ領域を追加します。
location	ネットワークおよびオペレーティング システム パラメータを設定します。
database	Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) データベースを再度セットアップします。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

このコマンドは、root ユーザ レベルで実行する必要があります。

例

以下に、ノードに基づいてポートを開く例を示します。

```
[root@server]# cmxos openports analytics

Opened port 6541
Opened port 6542

Successfully opened all ports.Saving iptables info...
```

cmxos reconfigure

導入後にネットワーク構成情報を変更するには、Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) CLI に接続し、**cmxos reconfigure** コマンドを実行します。

cmxos reconfigure

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

このコマンド (root ユーザ レベルで実行する必要があります) を使用して、IP アドレス、ネットマスク、デフォルト ゲートウェイ、DNS サーバ情報を変更することもできます。

例

以下に、Cisco CMX をインストールした後にネットワークを再構成する例を示します。

```
[root@server]# cmxos reconfigure
```



(注)

このコマンドによって開く [Device Configuration] ウィンドウで、該当するアクション (つまり、デバイスまたは DNS の再構成) を実行できます。

cmxos restore

ノードを復元するには、**cmxos restore** コマンドを使用します。

cmxos restore

構文の説明

--file PATH	バックアップ ファイルが置かれている場所のパス。
--path DIRECTORY	バックアップ ファイルを作成する場所のパス。
-i, --include_only TEXT	選択した部分だけを復元します。オプションは、 database 、 cache 、 cassandra 、 influxdb 、 consul 、 floormaps 、 licenses 、 setup です。
--HELP	ヘルプ コンテンツを表示します。

コマンド デフォルト

なし

例

以下に、ノードを復元する例を示します。

```
[root@server]# cmxos restore

Please enter the backup file path: /tmp/cmx_backup_cmx-vmdev117_2015_03_10_17_43.tar.gz
[17:44:12] Preparing for restore...
[17:44:12] Untarring backup file...
[17:44:13] Stopping all services...
[17:44:16] Restoring Database...
Restarting database...
[17:44:26] Restoring Cache...
Stopping cache_6379...
Restarting cache_6379...
Stopping cache_6381...
Restarting cache_6381...
Stopping cache_6380...
Restarting cache_6380...
[17:44:55] Restoring Cassandra...
Stopping Cassandra...
Restarting Cassandra...
.....
[17:45:19] Restoring Influxdb...
[17:45:19] Restoring consul...
[17:45:19] Restoring floormaps...
[17:45:19] Running Post Restore Tasks...
[17:45:19] Migrating Schemas...
[17:45:19] Migrating Cassandra schemas...
[17:45:20] Restarting all services...
[17:45:23] Done
```


cmxos upgrade

Cisco Connected Mobile Experiences (Cisco CMX) を新しい Red Hat Package Manager (RPM) またはパッケージでアップグレードするには、**cmxos upgrade** コマンドを使用します。

cmxos upgrade

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

使用上のガイドライン

このコマンドは、**root** ユーザ レベルで実行する必要があります。CLI では、ローカル ファイルまたは HTTP URL を使用できます。このコマンドが機能するのは、既存のバージョンより新しいバージョンにアップグレードする場合のみです。

例

以下に、RPM またはパッケージを使用して Cisco CMX をアップグレードする例を示します。

```
[root@server]# cmxos upgrade

The nodeagent service is not running.
Agent is not running, starting it now.
Starting nodeagent Process...

Stopping nodeagent Process...
Done
Successfully shutdown nodeagent Process.
Stopping consul Process...
Successfully shutdown consul Process.
Stopping qlesspyworker Process...
Successfully shutdown qlesspyworker Process.
Stopping cassandra Process...
Successfully shutdown cassandra Process.
Stopping iodocs Process...
The iodocs service is not running.
Stopping redis6383 Process...
Successfully shutdown redis6383 Process.
Stopping redis6380 Process...
Successfully shutdown redis6380 Process.
Stopping redis6381 Process...
Successfully shutdown redis6381 Process.
Stopping influxdb Process...
The influxdb service is not running.
Stopping collectd Process...
The collectd service is not running.
Stopping confd Process...
The confd service is not running.
Stopping redis6379 Process...
Successfully shutdown redis6379 Process.
Stopping redis6378 Process...
Successfully shutdown redis6378 Process.
Stopping haproxy Process...
Stopping postgres Process...
Successfully shutdown postgres Process.
```

```
Stopping analytics Process...
The analytics service is not running.
Stopping location Process...
The location service is not running.
Stopping configuration Process...
The configuration service is not running.
Stopping halo Process...
The halo service is not running.
Stopping matlabengine Process...
The matlabengine service is not running.
Stopping nmsplb Process...
The nmsplb service is not running.
Shutting down
```

cmxos verify

仮想マシンの設定を確認するには、**cmxos verify** コマンドを使用します。

cmxos verify

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

例

以下に、仮想マシンの設定を確認する例を示します。

```
[root@server]# cmxos verify
```

```
+-----+-----+-----+-----+
| Check |      expected      |   actual   | Result |
+-----+-----+-----+-----+
| memory | 8GB                 | 25GB       | ?      |
+-----+-----+-----+-----+
| cpu    | 4                   | 8          | ?      |
+-----+-----+-----+-----+
| disk   | 50GB                | 51GB       | ?      |
+-----+-----+-----+-----+
| hostname | rfc compliant hostname | cmx-vmdev146 | ?      |
+-----+-----+-----+-----+
```

